

グループ学習を通して古典の内容を的確に捉える取組 ― 人生を豊かにする態度を育てるために ―

千葉県立〇〇〇〇高等学校 〇〇〇〇 (国語)

一 はじめに

授業に取り組む本校生徒の姿勢は比較的眞面目である。しかし、古典を教材とした授業ではその作品世界に興味が持てず、古典に表れる思想や心情を的確に捉えられない生徒もいる。また、古典を難しいと感じてしまうあまり、初めから内容を捉えようとしないうちに生徒もいる。さらに、古典の学習は口語訳をすることだという意識が強く、授業で板書されたことを書き写し、その内容を知識として暗記することに比重を置いている。指導においても文法事項や語句を板書して理解させることに時間を費してしまい、生徒自身が内容を理解するための手立てや時間を十分に取っているか疑問である。

現代文の文学的文章を教材とした授業では登場人物の心情について話し合う場面を設定しているため、生徒はそれを通して文章の理解を深めている。また、場面ごとに内容を整理するほか作者の考えについても考察を深める取組が定着しているように感じる。しかし、古典の授業においては知識の習得に比べ、作品の内容について考える場面が十分ではなく、授業の在り方を見直す必要がある。

本校の生徒は、授業中の発問に対して積極的に発言しようとする生徒が多い。また、二人組の音読練習や話し合いなどの活動には抵抗なく取り組む傾向にある。達成度はそれぞれ個人差があるが、互いに学び合う姿勢が認められる集団である。このような他者との学び合いの姿勢を生かして、古典の内容を的確に捉えさせたいと考えた。「古典B」の目標には「古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる」と記されている。また、「古典B」の指導事項には「古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること」とあり、内容を的確に捉えることの重要性を述べている。そこで、生徒が主体的に内

二 研究仮説

(一) アンケート調査

容を考察することによって、「古典の学習は口語訳をすること」「古典は難しい」という意識を変え、古典の内容を的確に捉えることにつなげ、人生を豊かにする態度を育てたいと考え主題を設定した。

《アンケート対象》 二学年 五クラス (一九二名)

《アンケート内容》

A 古典の内容が理解できますか

ア	理解できる	24人
イ	ある程度理解できる	81人
ウ	あまり理解できない	68人
エ	全く理解できない	19人

B 古典は難しいと感じますか

ア	全く難しく感じない	4人
イ	あまり難しく感じない	35人
ウ	難しく感じる	117人
エ	非常に難しく感じる	36人

C Bで「難しく感じる」と答えた人は、その要因として考えられるものに○を付けてください。(複数回答可)

ア	文法が難しい	99人
イ	古典特有の語句がわからない	71人

ウ 口語訳ができない 43人
 エ 内容に興味を持たない 32人
 オ 主語がはつきりしない 25人
 カ 作品が長い 24人

D 古典で知りたいと思うことは何ですか。

ア 作品のおもしろさ 79人
 イ 作品の内容 53人
 ウ 昔の人の考え 29人
 エ 作品の内容と時代背景の関係 18人
 オ 昔の言葉や表現 10人
 カ 文法 3人

E 内容の理解を深めるためには具体的にどのようなしたら良いと思いますか。自由に書いてください。(特に多かった意見)

- ・「予習、復習をきちんとする」「わからない語句を調べる」
- ・「授業の話をきちんと聞く」「自主的に授業に取り組む」
- ・「自分の考えを持つ」「授業中に疑問を持ち、考えたり話し合ったりする」
- ・「絵や図をつけて説明する」「マンガや絵などでストーリーを整理する」
- ・「具体的なイメージをつくる」「登場人物や内容を整理してまとめる」

(二) アンケート結果の分析

アンケートの結果から、課題とその解決の手立てについて次のように整理した。

古典の内容が「全く理解できない」「あまり理解できない」と回答し、古典は「難しく感じる」「非常に難しく感じる」と回答した生徒は87人である。古典の内容が理解できないことと古典を難しく感じることとは密接な関係にあるようだ。しかし、古典の内容が「理解できる」「ある程度理解できる」と回答した生徒は105人で、そのうち古典は「全く難しく感じない」「あまり難しく感じない」と回答した生徒は39人である。残りの66人の生徒は古典の内容を難しいと感じながらも努力をして理解しているということになる。つまり古典を難しく感じることが必ずしも古典を理

解できないことに結びつかないと言える。古典が難しいと感じてもそれを克服することで内容の理解に結びついている生徒がいるのである。反対に古典が理解できない87人の生徒は古典を難しく感じる要因を克服できずにいるために理解に至らないと考えられるので、その要因を克服できれば古典を理解できるようになるのではないだろうか。この課題を解決するためには、古典の内容を理解できない生徒が、古典を難しいと捉えている障壁を乗り越えられるような支援や授業の工夫を取り入れる必要がある。

古典を「難しい」と感じさせる要因は何か。今回のアンケート結果で生徒の回答が多かったのは次の①～④である。

- ① 理解をするための知識が身に付いていない。
- ② 古典作品に興味や関心が持てない。
- ③ 主語などが明確ではないので内容が理解できない。
- ④ 文章が長いときには内容が理解できない。

①については、今までも語句調べの予習や復習の小テストを実施して知識を身に付けさせる取組をしてきたが定着していなかった。生徒はひたすら暗記しなければならぬと捉えているため、学習意欲が高まらず知識として身に付かなかつたと考えられる。③④は内容を的確に捉えることと密接に関係しているため解決は容易ではない。

ところで、生徒は「古典で知りたいと思うこと」について、「作品のおもしろさ」や「作品の内容」、「昔の人の考え」を挙げている。これは古典の内容を理解したいという意欲の現れである。また、「内容の理解を深める」ための具体的な方法として、「予習、復習をきちんとする」「授業の話をきちんと聞く」といった授業に臨む基本的な取組のほかに、「自分の考えを持つ」「考えたり、話し合ったりする」という回答がアンケートの中に多数あった。この結果から、生徒は古典の内容を理解したいと思ひ、学習に対する姿勢も前向きであり、古典の内容を理解するためには自分の考えを深めることが重要だと捉えている。このような意識を生徒が持っているにも関わらず、古典を難しいと感じ古典の内容が理解できないのは、個人では授業を通して解決できていないことがあったり、

考えが十分深まっていなかったりするからだと考えられる。そこで、授業において生徒が自分の考えを出し合い話し合う場を設定すれば、学び合いによって主語などを把握して文章の展開を捉え、長い文章を読み通すことができるのではないか。

この学習により①③④は解決すると考えられ、また、その成果により②も解決する可能性が高い。そのためには一人一人の生徒が意見を交換し、考えを深めることを可能にするグループ学習が効果的である。少数の中での学び合いを通して「古典は難しい」と感じる要因を克服でき、古典の内容を理解することができると考えられる。

①④について、グループ学習によって期待できる効果を次のようにまとめた。効果が表れることが予想される順に示してある。

- ③ 主語などが明確ではないので理解できない。
↓グループで意見を出し合い、検討することによって主語をつかみ筋道を見付けることができるのではないか。
- ④ 文章が長いときには内容が理解できない。
↓グループで読み取ることができると考えられる。
→長い文章を読み通すことができるのではないか。
理解をするための知識が身に付いていない。

② ↓グループでの読み取りの過程において、調べ合いや教え合うことで知識を身に付けることができるのではないか。
↓古典作品に興味・関心が持てない。
↓グループ学習を通して古典の内容が読み取れることで、古典に興味を抱くのではないか。

(三) 仮説

分析結果を踏まえ、内容を的確に捉える力を身に付けるためには、「古典は難しい」と感じる要因を生徒が乗り越えられるような授業の工夫と支援が必要である。そのために、生徒が互いに理解を深める取組を行うことが有効であるのではないか。そこで次の仮説を立て、実践研究を行う。

生徒がグループ学習を通して意見を交わし合うことで、「古典は難しい」という意識を変え、古典に表れる思想や心情を的確に捉えられるのではないか。

三 実践計画 (平成二十四年度 二年生「古典」三単位)

実施時期	単 元	学 習 目 標	学 習 活 動	評価方法
平成二十四年 六月	予備実践 故事成語 「臥薪嘗胆」	・登場人物の行動や、その心情を的確に捉える。 (内容(1)イ)	・口語訳をして物語の展開を理解する。 ・話し合い活動を通して、登場人物の心情を理解する。 ・話し合ったことを発表して理解を深める。	・記述の確認 ・行動の観察 ・発表の分析
平成二十四年 十月～十一月	授業実践Ⅰ 史伝『史記』 「四面楚歌」	・登場人物の置かれた立場や状況、心情を的確に捉える。 (内容(1)イ)	・口語訳をして物語の展開を理解する。 ・グループで口語訳を基に話し合い、放送劇のシナリオを作成する。 ・グループで登場人物の心情を話し合う。	・行動の観察 ・記述の点検 ・行動の観察

平成二十四年 十二月	授業実践Ⅱ 随筆『枕草子』 「春はあけぼの」	・作者の自然に対する考えを的確に捉える。 (内容(1)イ)	・口語訳をする。 ・グループで作者の自然に対する考えを話し合い、イラストで表す。 ・作品を通して理解を深め、感想を書く。	・記述の確認 ・行動の観察
平成二十五年 一月	授業実践Ⅲ 随筆『方丈記』 「ゆく河の流れ」	・作者の人生に対する考えを的確に捉える。 (内容(1)イ)	・対句・倒置・比喩などの語法に注意しながら口語訳をする。 ・グループでA3用紙に内容を図式化して整理する。 ・作者の人生に対する考えについてグループで話し合い、その内容を発表する。	・行動の観察 ・記述の点検 ・発表の分析

*「学習目標」の()内は、「学習指導要領」「古典B」のどの内容に該当するかを示す。

四 授業実践

(一) 予備実践

〈実施時期・対象〉平成二十四年六月・二年生 ニクラス
〈単元〉故事成語「臥薪嘗胆」

ア ねらい

「臥薪嘗胆」を読み、夫差の言動の理由を考えることで、登場人物の心情を的確に捉えさせる。

イ 授業展開と指導上の留意点

(ア) 授業展開

- ① 「臥薪嘗胆」を書き下し文に直させ、口語訳させる。
- ② 理解を深めるために話し合いをすることを説明する。
- ③ 「夫差乃賜子胥鏃之劍」「吾無以見子胥」について話し合わせる。
- ④ 内容と話し合いについて生徒に感想を書かせる。

(イ) 留意点

- ① 話し合う課題を明確に提示する。
- ② クラス全体で話し合う形式と、少人数(四人～六人)のグルー

【資料1】〈生徒の意見〉

○ 話し合いの課題「なぜ夫差は子胥に鏃之の劍を渡したのか。」

- ① 呉王は大切な劍を渡すことで気持ち悪くなってほしかったから。
- ② この劍で自殺しろという命令。

○ 話し合いの課題「なぜ夫差は『子胥に会わせる顔がない』と言ったのか。」

- ③ 子胥のことを信用せず自害させたが、自分が間違っていたとわかったから。
- ④ 部下の本心を見抜けなくて恥ずかしかったから。

⑤ 子胥の言ったとおりになって失敗したことに気付いたから。

【資料2】〈生徒の感想〉

- ① 復讐のために二十年間も努力して準備をしたから「勾踐」は意志が強いと思う。
- ② 「夫差」は自分が間違っていたと知って情けなかったと思う。
- ③ 「子胥」は「夫差」に自害を命じられたとき、とても悔しかったんだと遺言からわかった。
- ④ 「臥薪嘗胆」の意味が苦難を忍んで我慢することだと、この話で理解することができた。
- ⑤ 「夫差」が「勾踐」に敗れたのは、復讐をした後にそれまでの恨みを忘れてしまったからだ。

【資料3】〈話し合いについての生徒の感想〉

（クラス全体・グループ）

① 何を書けば良いかわからなかったので近くの友達に内容を説明してもらった。

② 話し合いをして内容がもっとよくわかった。他の人の意見を知って自分の考えが足りないことがわかった。

（クラス全体）

③ クラスの人はどう考えているのか全体的にわかった。

④ 黒板の付箋が小さくて見えない。

⑤ 黒板に貼るとき、どの意見に近い判断が難しかった。

⑥ クラス全体では話し合いにくい。

（グループ）

⑦ 少人数なので顔を見ながら、意見が言いやすかった。

⑧ 自信がなくて積極的に参加できなかった。

⑨ 話し合いで遊んでしまった。

ウ 考察と反省

【資料1】①のように「夫差」の心情を十分には捉えられていない生徒もいたが、話し合いをする中で②のように的確に捉えられるようになった生徒が増えた。【資料2】①②③からは「夫差」「勾踐」「子胥」など主な登場人物についてその心情を捉えていることがわかる。また、授業の話し合いを通じて、より登場人物についての考えが深まったという感想が多かった。このことから登場人物の心情を捉えることは概ねできたと言える。登場人物の心情を捉えることにより④のように「臥薪嘗胆」の使われ方についても理解が深まった。

【資料3】①が示すように話し合うために生徒が内容を理解しようとする意欲があることがわかる。また、授業中に話し合いの場を設定することで、生徒が積極的に話し合う様子が見られた。そして、②のように他の生徒の意見を通じて、自己の意見の足りない部分を補い考えを深めようとする気持ちがあることもわかった。これらのことは、内容の理解や考えを深めるために話し合いが有効であることを示している。

クラス全体で付箋を黒板に貼っていき、意見をまとめる方法は、全員の意見を知ることができるが、付箋が小さいため指導者がまとめるまでは内容がわかりづらい（【資料3】③④）。また⑤⑥のように意見が多過ぎてすぐに整理できないことや、生徒が発言しにくいという問題がある。

グループで話し合った場合も、⑧のように自信がなかったり⑨のように遊んでしまったりして、話し合いに参加していない生徒がいるという反省点が残った。しかし⑦のように少人数なので意見が言いやすかったという意見が多く、全体の話し合いよりもグループ学習の方が話し合いが進み、理解の深まりにつながったため、グループ学習は有効であると考えられる。今後は自信を持ってグループ学習に参加できる手立てや、自信がなくてもグループ学習に主体的に取り組める支援を考えていきたい。また、「遊んでしまう」生徒がいないように、グループ学習に有効な人数を考え一人一人の役割を明確にするなど、有意義な話し合いができるようにすることが課題として残った。

(二) 授業実践 I

〈実施時期・対象〉平成二十四年十月～十一月・二年生 二クラス
〈単元〉史伝『史記』『四面楚歌』

ア ねらい

内容をシナリオに書き換えることを通して、登場人物の置かれた立場や状況、心情を的確に捉えさせる。

イ 授業展開と指導上の留意点

(ア) 授業展開

- ① 「四面楚歌」の「項王軍壁垓下。左右皆泣莫能仰視。」までの書き下しと口語訳を行い、内容を読み取らせる。
- ② 「四面楚歌」の「於是項王乃欲東渡烏江。乃自刎而死。」までの口語訳プリントを配付して、後半の内容を理解させる。
- ③ 項王が「垓下」に立てこもつてから、「烏江」の渡し場で漢軍と戦い、自害する場面まで、生徒自ら放送劇を演じるつもりで、シナリオに書き換えさせる。

(イ) 留意点

- ① 登場人物のどのような心情に留意してシナリオを作成するか話し合わせる。
- ② 口語訳そのままの言い回しではなく、聞き手に伝わりやすい言葉に書き換えさせる。
- ③ シナリオは地の文（場面や状況説明）と会話文（せりふ）程度の簡単なものとし、シナリオ作成の方法をまとめたプリントを配付する。
- ④ 放送劇を演じる際の配役をあらかじめ決めさせる。
- ⑤ グループでの話し合い活動は四人で行う。役割は班長（司会）・副班長（司会補助）・記録係二人とする。

【資料4】〈生徒の作品〉

○ 虞美人のせりふや歌の創作（項王の歌に応える）

（せりふ）

- ① 「私も歌ってよろしいでしょうか。」
- ② 「私はあなたにお仕えて幸せでした。生まれ変わってもまた会いましょう。」

（歌）

- ③ 「私のことはどうか気になさらないで。あなたと一緒に幸せでした。」
- ④ 「♪あなたは立派でした。あなたはもう頑張らなくていいですよ。」

○ 項王のせりふ

- ⑤ 「俺様の力は山を突き抜けるほどで精神力はこの世を覆い尽くすほど強い（自慢顔）。俺様がこの状況になったのは時運がなかったり驍が戦いで進もうとしなかったからだ（悩み顔）。愛する虞よ、お前をどうしたら良いのか（切ない顔）。」
- ⑥ 「（烏江のほとりで）天が私を滅ぼそうとしているのにどうして逃げようか。私はそれに屈したくない。（中略）周りの人が何も言わないでくれようとも私のプライドが許さない。」

【資料5】〈生徒の感想〉

○ シナリオ作りを通じて登場人物の心情を捉えることができたか。

- ① 場面ごとに分けて登場人物の気持ちを考えることができた。
- ② それぞれの場面で、登場人物の感情をせりふで表現できるように注意した。
- ③ 最後の自害するところの前は、心情を表現するのに苦労した。
- ④ 項王が死ぬところなど、気持ちがはっきり書いていないところを表現するのが難しかったが、みんなで意見を出し合って考えられた。
- ⑤ 堅苦しい表現ではなく、自分たちの言葉でわかりやすくしたらおもしろかった。
- ⑥ どんな状況になっているかわかるように、できるだけ詳しくナレーションで表現した。
- ⑦ 心情を捉えると自分たちが『史記』の世界に入ったみたいで楽しかった。

ウ 考察と反省

生徒は【資料4】①②の虞美人のせりふや③④の歌の創作を通して、虞美人の項王への尊敬や愛情を表現するなど工夫が見られた。⑤は放

送劇のシナリオだが、項王の心情を表すためにどのような顔をしたら良いか演技まで書き入れていた。また、身近な言葉や表現に置き換えるなど、聞き手に伝わるように工夫した跡も見られる。生徒が「四面楚歌」を主体的に読み取り、内容を深く理解していることがわかる。グループ学習のシナリオ作りを通して登場人物の置かれた立場や状況を捉えて心情に寄り添う姿勢が見られた。生徒は口語訳だけでは気付かなかった細かい点まで考えることができ、内容をよりの確に捉えることができていた。

【資料5】①②の感想から、生徒自身がシナリオ作成の際に場面分けをして、登場人物の置かれた状況と心情などを詳しく考えていることがわかる。特に③のように「項王が自害するときの心情」に注目する生徒が多かったのが印象的だった。一斉授業では口語訳が中心となり見過ごされてしまいがちな点である。自害するまでの経緯などは書かれているが、その時の項王の心境についてはその言動から推測するしかないからだ。生徒は内容を的確に捉えるために項王の心情を理解することが重要だと考えている。④⑤⑥からわかるように、シナリオの作成中はほとんどのグループが話し合いによって問題を解決していた。これは登場人物の置かれた立場や状況を的確に捉えてその感情を表現しようという意欲の現れであり、グループ学習が効果的に行われている証であると言える。また、⑦のようにグループでのシナリオ作りを通して作品の感じ方に変化が見られたことも収穫であった。

今回はシナリオを放送劇として演じる際の配役をあらかじめ決めさせた。演じることはその人物の心情を想像することにもつながる。話し合いの過程では、その役を担当する生徒が中心になって話し合う様子が見られた。司会や記録といった係だけではなく、主体的に内容を捉えるために各登場人物の担当者を決めておくこともグループ学習を行う上で有効であった。また、グループ学習の人数は発言の機会を確保でき、お互いの顔が見える距離で話し合いに参加しやすいことから、四人が適切であることも確認できた。生徒も四人でグループ学習をすることに對して抵抗がない。「遊んでしまう」生徒もほとんど見受けられず、今回の実践でグループ学習では役割と人数の重要性を再確認した。シナリオの作成に慣れていたなかったので時間がかかってしまい、発表

の時間が確保できなかったが、話し合いを通じて登場人物の置かれた状況や心情を捉えることは概ね達成できた。そして、生徒が内容を的確に捉えられるということは、古典を学ぶことを通して生徒自身のものの見方、感じ方、考え方に影響するのではないかと感じた。

(三) 授業実践Ⅱ

〈実施時期・対象〉平成二十四年十二月・二年生 三クラス
〈単元〉随筆『枕草子』『春はあけぼの』

ア ねらい

読み取った内容をイラストに描くことで、作者の自然に対する考えを的確に捉えさせる。

イ 授業展開と指導上の留意点

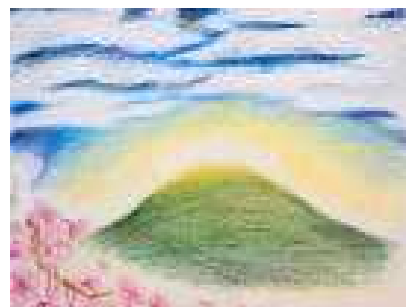
(ア) 授業展開

- ① 生徒に本文の口語訳をさせる。
 - ② グループで本文の内容を「春」「夏」「秋」「冬」に分けてイラストを一枚ずつ描かせる。
 - ③ イラストを貼り出し、作者の自然に対する考えをよく表しているか相互評価させる。作者の考えについて自由に感想を書かせる。
- (イ) 留意点

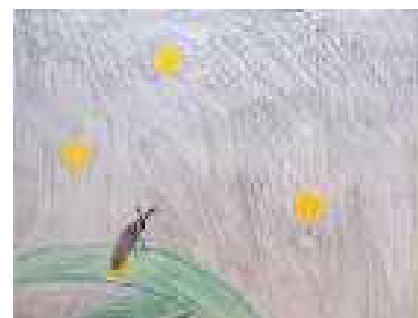
- ① グループでの係を明確にさせる。班長(司会)・副班長(司会補助)・記録係(話し合いのメモ)・発表係の四人で構成する。四季を分担して、一人一枚イラストを描かせる。
- ② 四枚で一つの作品になることに注意させ、自分たちのグループがそれぞれの季節のイラストをどのような構図にするか話し合わせて、ワークシートに文章でまとめさせる。
- ③ A3画用紙を四等分したものに、それぞれの季節のイラストを描かせて台紙に貼らせる。

【資料6】〈生徒の作品と感想〉

〈春〉



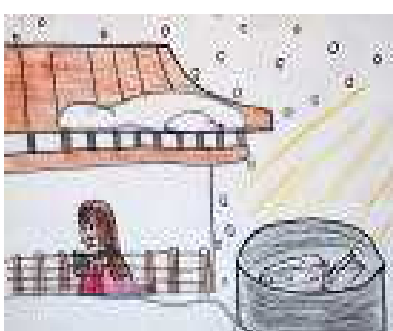
〈夏〉



〈秋〉



〈冬〉



○ 清少納言の自然に対する考えについて

- ① 各季節ごとの時間帯が趣があるかという点に絞られていておもしろかった。
- ② 特別な絶景ではなく、日常の風景の中に風情を感じている。
- ③ シンプルだけど奥深い。考えさせられた。
- ④ 現代の自分にも共感できることが、端的に表現されていて素晴らしい。
- ⑤ 清少納言の文章の春は、普段自分が抱いている春のイメージと全く違っていた。

○ イラストを描いた感想

- ⑥ 「紫がかった雲」など、色にこだわりがあるように感じた。
- ⑦ 春のあけぼのや冬の火桶の炭がイメージしにくかった。
- ⑧ 視覚や聴覚など様々な感覚で自然の美しさを捉えていて情景が目には浮かぶようだった。
- ⑨ 描く前にどのようなイラストにするか話し合ったので描きやすかった。
- ⑩ 細部がよくわからなかったため、本文を何度もよく読んで意見を出し合ったので理解できた。
- ⑪ 自分たちで話し合っってイラストを描いたり、ほかの人が描いたイラストを見ることで理解が一層深まった。
- ⑫ グループで春夏秋冬通して考えたので全体的な清少納言の自然に対する考えについても理解できた。
- ⑬ 季節の美しさに対する先入観があったけれど、グループで話し合うことで作者の考えが理解できた。

ウ 考察と反省

【資料6】①～④からは、生徒が作者の自然に対する考えを的確に捉えている様子がわかる。ほとんどの生徒が中学の時に学習していた文章だったので、口語訳をすることは難しくなかったようだ。しかし、内容をイラストにするときには、⑨⑩のように不明瞭な点があると描けないため、細部にわたって話し合う様子が見られた。春の明け方に少しづつ白くなっていく空の様子や紫がかった雲の様子は、どのような感じなのだろうか、辺りはまだ暗いのだろうかなどと、日の出のない生徒たちは簡単に想像できなかったようで、活発に話し合いを行っていた。雁（かり）が連帯を組んで飛ぶ渡り鳥であることや、蛍の光が真つ暗な闇夜にこそ映えることなど、イラストにするための話し合いを通して気付いた生徒も多かった。便覧を活用して火桶（ひおけ）を確認したり、雁が連帯を組んで飛んでいる様子を図鑑で調べていたグループもあった。【資料6】の〈秋〉の絵のように「虫の音」「風の音」の風情を工夫して表現するグループもあった。

イラスト作品の完成後、教室に掲示して相互評価をさせた。自分のグループが描く時に苦労した部分がどのように表現されているかとい

うことに関心を持って評価していた。感想では本文から何となく想像していた情景が、⑩のように話し合ってイラストを描くことにより、明確になったというものが多かった。グループで話し合ったことが役立ったようである。イラストに描く際に生徒は作者の考えに共感できる季節を選ぶ傾向にあり、他の季節に対する作者の考えには関心を示そうとしなかったが、グループでの話し合いを通じて⑫⑬のように作者の考えを理解することができた。他者の様々な考えに触れて自己の考えが深まったり広がりを持つたりすることによって、内容を的確に捉えられるようになったということである。口語訳だけでは内容の理解が深まらなかったかもしれないが、内容を的確に捉えるためにグループ学習が有効であったと考えられる。今回は班長（司会）、副班長（司会補助）、記録係の他に発表係としてグループの一名にイラストの揭示や相互評価の感想を発表させた。発表することによりグループの考えがより深まるとともに、係を一人一役にすることで役割が明確になりグループ活動も円滑に行われていた。

（四）授業実践Ⅲ

〔実施時期・対象〕平成二十五年一月・二年生 四クラス
〔単元〕随筆『方丈記』『行く河の流れ』

ア ねらい

内容を図式化（イラスト化）することを通してその論理の展開を理解し、作者の人生に対する考えを的確に捉えさせる。

イ 授業展開と指導上の留意点

（ア）授業展開

- ① 生徒に本文の口語訳をさせる。
- ② グループで比喻・対句・倒置の表現を確認して、論理の展開を読み取らせる。
- ③ 作者の考えをまとめさせる（ワークシートに記入）。
- ④ 内容を整理して図式化したものをA3用紙に書かせる。
- ⑤ 各班で作者の人生に対する考えについて話し合いクラスで発表

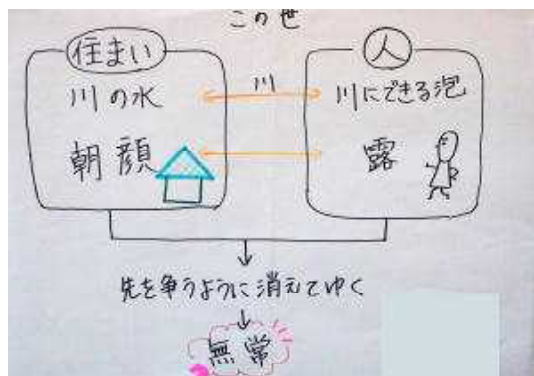
させる。

（イ）留意点

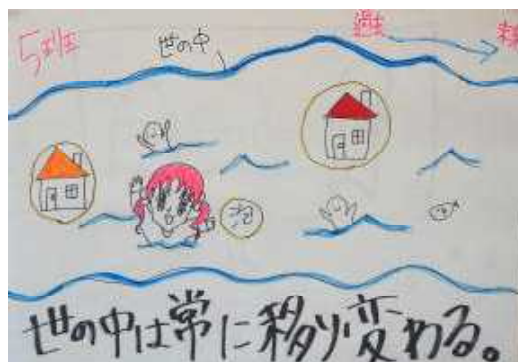
- ① 『方丈記』執筆の背景を説明する。
- ② グループでの係を明確にさせる。班長（司会）・副班長（司会補助）・記録・発表の四人で構成する。
- ③ 表現の確認や図式化は作者の人生に対する考えを的確に捉えるものであることを生徒に知らせ、グループでよく話し合わせる。
- ④ 学校図書館と連携して資料を用意する。

【資料7】〈生徒作品〉

① 図式化した作品



② イラスト化した作品



【資料8】〈生徒の発表と感想〉

○ 作者の人生に対する考えはどのようなものか

- ① 世の中に永久不変なものはない。
- ② すべて少しの間も同じ状態ではない。
- ③ 仏教的価値観に基づいた考え。
- ④ 無常の世の中とはかない人間存在。

○ 内容を図式化することを通じての感想

- ⑤ 図式化したら、最後には訳した内容もよくわかるようになった。
- ⑥ 対句や比喩に注意して読んだらわかりやすかった。
- ⑦ 抽象的な概念なので難しかった。
- ⑧ 理解できたと思うが、無常観などは奥が深いと思った。
- ⑨ 方丈記を通して人間のはかなさを知ることができた。
- ⑩ 疑問も残ったが、無常観について深く考えさせられた。
- ⑪ 人生について深く考えたことがないが、今回考えさせられた。
- ⑫ グループでやったので話し合えてよかった。

ウ 考察と反省

どのグループも、図式化に向けて的確に内容を理解しようと積極的に話し合っていた。【資料7】①のように簡潔に表現したグループや、②のように自分たちのイメージを作り上げて独特な表現をしたグループもあった。グループで話し合っていく中で、冒頭の「水」「泡」が、後半部分の「朝顔」「露」と対応していることに気付いたり、比喩を用いて作者が伝えたいことについてじっくり考えたりすることができたのは、グループ学習の効用であると言える。

ほとんどの生徒は本文中の「世の中にある人と住みかと、またかくのごとし」「あるじと住みかと無常を争ふ」という部分に着目して【資料8】①のように「この世の中に永久不変のものはない」という作者の人生観を導き出していた。しかし、クラスで二、三人ほど本文の内容が的確に捉えられていない様子の生徒がいたため、そのような生徒に対する手立てとして授業後に私が作成した「行く河の流れ」の展開図を示して説明した。すると、「難しくてよくわからない」と言った生徒から「わかった」という言葉が聞けた。生徒にわからなかった点を詳しく尋ねてみると、対句や比喩の構造を的確に捉えられていなかった

たことがわかった。生徒同士の話し合いや言葉での説明だけでは的確に捉えることが難しい生徒もいる。そんな生徒を見落とさずに、適切な支援をすることが必要であることもわかった。しかし言葉の説明だけでなく、「図式化」することは文章の展開を視覚的に整理でき、内容を的確に捉えることに役立つと言える。また、【資料8】⑨⑩のように、学習活動を通して人生について考える生徒も出てきた。さらに『方丈記』が書かれた背景や鴨長明について調べるために学校の図書室を利用したグループは、「行く河の流れ」以外の文章からも作者の考えを読み取る取組に発展させていた。古典を的確に捉えることを通して考え方が深まったり、視野が広がったりしていた。

五 まとめ

(一) 生徒アンケート結果 【資料9】

《アンケート対象》 二学年 五クラス（一八七名）
《アンケート内容》

A 古典の内容が理解できましたか

- | | | |
|---|-------------|------|
| ア | 理解できた | 106人 |
| イ | ある程度理解できた | 27人 |
| ウ | あまり理解できなかった | 3人 |
| エ | 全く理解できなかった | 1人 |

B 古典は難しいと感じますか

- | | | |
|---|------------|-----|
| ア | 全く難しく感じない | 13人 |
| イ | あまり難しく感じない | 71人 |
| ウ | 難しく感じる | 94人 |
| エ | 非常に難しく感じる | 9人 |

C 古典で知りたいことがわかりましたか（複数回答可）

- | | | |
|---|----------|-----|
| ア | 作品のおもしろさ | 67人 |
| イ | 作品の内容 | 61人 |

ウ 昔の人の考え 49人
エ 作品の内容と時代背景の関係 53人
オ 昔の言葉や表現 36人
カ 文法 13人

D グループ学習の形態でイラスト、シナリオ、図などの作成を行ったことは内容の理解につながりましたか。ア～オの中から記号で答えてください。

ア おもしろかったし、内容の理解に役立った
イ 少し面倒だと思ったけれど、内容の理解に役立った
ウ 古典の内容が難しかったけれど理解に役立った
エ 古典の内容が難しくあまりわからなかったので役立たなかった
オ 古典の内容が全くわからなかったので役立たなかった

(a)『史記』シナリオを作ったこと・・・二クラス(七八名)

ア19人 イ27人 ウ26人 エ5人 オ1人

(b)『枕草子』イラストを描いたこと・・・三クラス(一〇九名)

ア41人 イ35人 ウ29人 エ2人 オ2人

(c)『方丈記』内容を図で表したこと・・・四クラス(一一五一名)

ア27人 イ47人 ウ64人 エ11人 オ2人

E グループ学習で取り組んだことが内容の理解にどのように影響したと思いますか。自由に書いてください。

○ 内容の理解

- ① 授業で話し合いを重ねていくうちにだんだん内容がわかるようになった。
- ② グループ学習をすることで内容の理解が深まり印象に残った。
- ③ 他の人の意見を交えて考えると違う角度から作品を見ることができて新しい発見があった。
- ④ 話し合うことで内容や作者の考えに共感したり、自分の気持ちを考えたりした。

○ 学習の楽しさ・おもしろさ

- ⑤ グループ学習の課題は難しかったけど、やりがいがあったて楽しく学習できた。

⑥ みんなで一つのものを作って達成感を感じた。

○ 主体的に学ぶ態度

⑦ グループでやるならきちんとやらないといけないと思ったら、内容が頭に入ってきた。

⑧ 何をやるべきか目標がはっきりして、自分から考えようとする気になった。

⑨ グループで内容がわからない人に説明するために、自分がしっかり理解しようと思った。

○ グループの形態

⑩ 人数は四人くらいが協力ができていて丁度よかった。

○ 話し合いに関すること

⑪ 係や役割がないときよりあった方が良いと思った。

⑫ まとめたり、自分の意見を主張したりするのが難しかったけどやってよかった。

○ 人間関係

⑬ グループの生徒によって進み具合が変わると感じた。

⑭ グループを構成している人を入れ替えたりして普段話さない人と話ができよかった。

⑮ 仲の良い人とグループになると私語が増えてしまった。

⑯ 仲の良い人ともグループになってやってみたかった。もしかしたらもっと話し合いが充実したかもしれないと思った。

(二) 仮説の検証

生徒がグループ学習を通して意見を交わし合うことで、「古典は難しい」という意識を変え、古典に表れる思想や心情を的確に捉えられるようになることを目指して実践を行ってきた。実践を終えて生徒の意識がどのように変化したかを検証する。アンケート結果の【資料9】A「古典の内容が理解できましたか」という問いに対して「理解できた」「ある程度理解できた」と答えた生徒は157人で、「あまり理解できなかった」「全く理解できなかった」と答えた生徒は30人であった。八割以上の生徒が古典に表れる思想や心情を的確に捉えられたと実感している。B「古典は難しいと感じますか」の問いに対しては、「全く感じない」「あまり難しく感じない」が84人で、「難しく感じる」「非常に難しく感じる」と答えた。

た生徒は103人であった。「あまり理解できなかった」「全く理解できなかった」と答えた生徒が30人であることから、「難しく感じる」「非常に難しく感じる」と答えた生徒の大部分の生徒が実践を通して「古典は難しい」という意識を克服でき、内容を理解できるようになったと言える。また、実践前のアンケートと比べると、「難しく感じる」「非常に難しく感じる」と答えた生徒が50人減り、「理解できた」「ある程度理解できた」と答えた生徒が52人に増えている。これはグループ学習を通じて内容的確に捉えることができた実感があるからだと考ええる。Dのグループ学習についての感想については「役に立った」と回答した生徒がほとんどである。これは作品を作成する過程で何度も話し合いを行い、理解や考え方に深まりを感じた結果であると言える。E「グループ学習で取り組んだことが内容の理解にどのように影響したと思いますか」という問いに対しては、①②③のようににはつきりと内容の理解が深まったと答えている。

④の「自分の気持ちを考えたりした。」ということは、【資料6】③④⑤のように、生徒が自分の考えと作者の考えを比べて相対化していることと同様である。これについては、【資料8】⑨⑩のように、学習活動を通して人生について考える生徒が出てきたように、内容的確に捉えることができれば古典を通じてものの見方、感じ方、考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てることもつながっていくことを示している。そして、【資料9】⑤⑥⑨のように学習の達成感や楽しさ、主体的に学ぶ姿勢が自然とわいてきた生徒もいる。グループ学習の留意点として⑪のように一人一人が責任を持ち、目標達成のために協力して学習を行うために係や役割をしつかりと決めておくことが重要であるとわかった。

(三) 今後の課題

今回の実践において本文書写、語句調べの予習を徹底させることに努めたが、忘れる生徒もいた。【資料9】Dについて、オ「古典の内容が全くわからなかった」という生徒は予習段階でのつまづきが目立つ。理解のための基本的な準備がされていないとグループ学習をしてもそのまま理解できずに終わってしまう傾向にあった。これについては個別に指導することも必要だが、グループ学習の効用をもっと生かして、理解でき

る者に援助させたり、声掛けをさせたりする指導をしていくことが必要であると感じた。ほとんどの生徒はグループ学習に肯定的で効果的に行っているが、内容が理解できる生徒の中にはグループ学習を負担に感じる者もいた。今後はそのような生徒にも有効なグループ学習の在り方を研究する必要がある。また、⑫から、自分の考えをまとめたり主張したりする力を高める指導の必要性も浮き彫りにされ、再考の余地が残った。最後に、グループ学習では⑬⑭⑮⑯のように人間関係上の要素が絡んでくる。本校の生徒は比較的学び合う姿勢が認められる集団であるが、個人的な人間関係までは予測することができない。人間関係に影響されずにグループ学習を進める方法を探り出すことも今後の課題である。

六 おわりに

今回の実践は授業中の「先生、古典っておもしろい？」という生徒の質問が始まりであった。私は古典のおもしろさを伝えられているつもりで授業を行っていたが、生徒は古典のおもしろさや楽しさを実感できていないと気付いた。授業で指導者が古典はおもしろいと感じていないと、それを生徒に伝えることはできない。しかし、指導者がそれを伝えようとすれば生徒も実感できると勘違いしていた。指導者の一方的な授業ではなく、目的に合った言語活動を通して、生徒自身が試行錯誤しながら古典の内容を捉えた時に本当のおもしろさが実感できるのである。

生徒に一年間の授業の感想を自由に書いてもらった。「授業がおもしろくて毎回楽しみだった」「古典が好きになった」「一年間大変だったけど授業がわかりやすくておもしろかった」「古典がこんなにおもしろいって知らなかった。先生ありがとう。」などという感想に、私の方が感謝の気持ちでいっぱいになった。

(参考文献)『心の教科指導』 西川 純 編著 (東洋館出版社)